

第 78 期

事業報告書

平成14年 4 月 1 日から
平成15年 3 月31日まで

株主の皆様へ



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

この度、6月27日開催の取締役会におきまして、私が取締役社長に選任されました。つきましては、微力ながら当社発展のため全力を傾注いたす所存でございますので、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

当社の第78期事業報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当連結会計年度のわが国経済は、当年度の前半に米国やアジア向けを中心に輸出が伸び、生産も持ち直すなど一部に明るさが見られましたが、設備投資や個人消費に力強さがなく、加えて株価低迷や失業率の高止まり、さらにはイラク情勢の切迫などが消費者心理の冷え込みにつながり、景気は一段と停滞感を強めました。

石油化学業界におきましても、中国向けを中心とした輸出などで需要に上向きの兆しを見せていましたが、国内需要の冷え込みや原油およびナフサ価格の急騰など厳しい経営環境でありました。

当社グループは、このような環境のもとで、ゴム、ラテックス、化成品を中心とした石化製品では、特殊化戦略に基づきグローバルシェア拡大と新規市場開拓に努めてまいりました。また、情報・環境・健康事業分野では、グループの独創的技術をベースとした製品の新用途開発に注力し、なかでも当年度の後半に上市いたしました「ゼオノアフィルム」は売上増加に寄与しました。さらに引続きグループをあげてコストダウン対策として、ZΣ（ゼットシグマ）運動を展開し、競争力の維持・強化に取り組みました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は2,108億8千9百万円と前期比10.3%の増収となりました。営業利益では前期比25.4%増の129億4千5百万円、

経常利益では前期比16.4%増の97億9千1百万円となり、過去最高益を更新いたしました。また、当連結会計年度末の日経平均株価が8千円を下回る水準となり、銀行銘柄を中心に投資有価証券評価損の計上を余儀なくされましたが、前連結会計年度より評価損の発生が減少したことなどにより、当期純利益は前期比大幅増の30億5千万円となりました。

利益配当金につきましては、安定的な配当の維持を基本として、当連結会計年度の利益の状況、事業環境および次年度以降の業績の見通しなどを総合的に考慮いたしまして、1株につき2円50銭とさせていただきますと存じます。これにより、年間配当金は中間配当を含めると、1株につき5円となり前期と同額となります。

今後の見通しにつきましては、企業収益が若干持ち直したとはいえ、中東情勢や米国経済の先行き不透明による輸出・設備投資の減退に加え、個人消費の長期低迷など依然として厳しい経営環境が続くものと予想されます。

当社グループといたしましては、新3ヶ年計画「PZ-2」を策定し、全ての企業活動が「ZVA」（ゼオン流のEVA）の向上につながる体制をつくりあげ、事業構造改革、財務体質改革、企業風土改革等に取り組んでおります。事業構造改革では、徹底的に特殊化を進め、安定収益を確保している合成ゴム、ラテックス、化成品などのエラストマー素材事業をベースとして、当社の独創的技術を活かした高機能樹脂、精密加工品、情報材料、化学品などのスペシャリティ高機能材料事業を飛躍の柱として確立させてまいります。財務体質改革につきましては、売掛債権、棚卸資産を中心に総資産圧縮を進め、有利子負債の削減に取り組んでおります。またZΣ運動により、グローバル競争を勝ち抜くためのコスト競争力をさらに強化してまいります。このZΣ運動は、企業風土改革にもつながっており、全員参加による機動的かつスピードを重視する風土をさらに強化するための推進力にもなっております。

これらの改革を通して、グローバルな視点から常にコスト意識をもって「ZVA」を向上させることにより、業績の向上に努める所存であります。

株主の皆様におかれましては、なにとぞ倍旧の御支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成15年6月

取締役社長 古河 直純

部門別営業の概況

ゴム部門

合成ゴムの国内販売は、汎用ゴムでは当年度のタイヤ生産本数が過去10年間で最高を記録したことによる出荷の好調に加え、ポリスチレン業界の回復を受けて樹脂改質用途向けの出荷も好調だったことから、売上高は前期を上回りました。また、特殊ゴムにつきましても、自動車生産が好調だったことから、出荷は順調に推移し、売上高は前期を大幅に上回りました。

合成ゴムの輸出は、中国、東南アジアの旺盛な需要に加え、欧州大手メーカーへの新規採用などもあって出荷は汎用、特殊ゴムとも大きく伸び、売上高は前期を大幅に上回りました。

一方、海外子会社につきましては、米国経済の回復により自動車生産が前年度を上回り、米国での特殊ゴム需要が上向いたことにより出荷は好調に推移しました。また、欧州での特殊ゴム販売におきましても、欧州経済が回復したことから出荷が増加し、欧米全体の合成ゴムの売上高は前期を上回りました。

収益面では、原料価格が高止まりするなかで、製品価格の改定と原価低減に努めたことにより、前期より採算性は改善されました。

以上の結果、当部門の業績につきましては売上高が前期比11.3%増の908億9千1百万円、営業利益は同62.4%増の57億8千3百万円となりました。

ラテックス部門

合成ラテックスの国内販売は、ABS樹脂用途、紙加工用途および手袋用途の需要が好調であったため、出荷数量は前期を上回りましたが、タイヤコード用途など特殊ラテックスの出荷が低調であったため、売上高は前期を下回りました。

合成ラテックスの輸出は、パフ用途、ABS樹脂用途向けをはじめ全般的に出荷は好調でしたが、円高の影響もあって売上高は前期を下回りました。

一方、海外子会社につきましては、主として手袋用途向けの出荷が順調に伸び、売上高は前期を上回りました。

以上の結果、当部門の業績につきましては売上高は前期比5.7%増の147億7千8百万円、営業利益は原料高もあって同51.3%減の9億2千2百万円となりました。

化成品部門

化成品関連の国内販売は、主力製品である石油樹脂が市況の低迷に伴い、出荷は若干減少しましたが、熱可塑性エラストマー（SIS）の市場開拓が進み、需要が堅調に推移したため、国内全体の売上高は前期並みとなりました。

化成品関連の輸出は、石油樹脂が欧州、中国向けが好調に推移したため、売上高は前期を上回りました。

一方、海外子会社につきましては、タイ子会社が道路マーキング用途を主体とする石油樹脂のフル生産、フル販売を達成したことにより、販売数量、売上高ともに前期を上回りました。

化学品関連では、合成香料の需要が、主力製品のグリーン系・ジャスミン系ともに欧米市場を中心に堅調に推移しました。また、工業薬品類および医農薬中間体などの特殊化学品の販売も着実に売上を伸ばしました。

以上の結果、当部門の業績につきましては売上高は前期

比9.5%増の255億6千7百万円、営業利益は同7.6%減の30億5千7百万円となりました。

情報・環境・健康部門

情報材料関係では、電子材料は主要需要先である半導体業界の不調が長引くなか、営業努力と新製品の開発・上市により拡販に努めましたが、売上高は前期を下回りました。しかし、主力の最先端半導体微細プロセス用エッチングガス（ゼオローラZFL58）については、前期を大幅に上回る売上でありました。画像材料では、重合法トナーがマイクロカプセル型低温定着トナーとしての採用が順調に拡大して、売上高は前期を上回りました。

高機能樹脂（シクロオレフィンポリマー）関連では、「ゼオネックス」シリーズがDVDのピックアップレンズ用途での需要が拡大したこと、および携帯電話をはじめとするCCDカメラ用のプラスチックレンズ需要急増の恩恵をうけ、大幅な売上増となりました。「ゼオノア」シリーズは、従来の液晶パネル用バックライト導光板用途での順調な拡販やSACD（スーパーオーディオCD）などの新しい用途における拡販により、売上高は前期を大きく上回りました。また、当期の後半より生産、販売を開始したゼオノアフィルムも順調に伸び、売上高増加に寄与しました。

環境資材関連では、前期に増して公共投資の減少や競合他社との競争の激化などにより、プラ擬木等のリサイクルプラスチック資材や地盤改良用途向けの土木資材製品などの出荷が低調に推移したことから、売上高は前期を下回りました。

RIM（反応射出成形）関連では、主用途である合併浄化槽分野において他の材料との競争激化など厳しい環境のもと営業努力をしましたが、RIM事業全体の売上高は前期を下回りました。

医療器材関連では、PTCA（経皮的冠動脈形成術カテーテル）のOEM生産が着実に伸びたこと、および今期より米国にある鶏ワクチンの製造・販売会社であるバイオミュン社を連結子会社に組み入れたことにより、売上高および営業利益はともに前期を上回りました。

以上の結果、当部門の業績につきましては、売上高は前期比12.9%増の313億3百万円、営業利益は高収益製品のウエイトが向上したことなどにより同185.5%増の20億6千7百万円となりました。

なお、平成15年5月16日開催の当社取締役会において、当社のRIM事業を当社完全子会社であるRIMTEC株式会社が承継することを内容とする会社分割契約書を同社と締結することを決議いたしました。

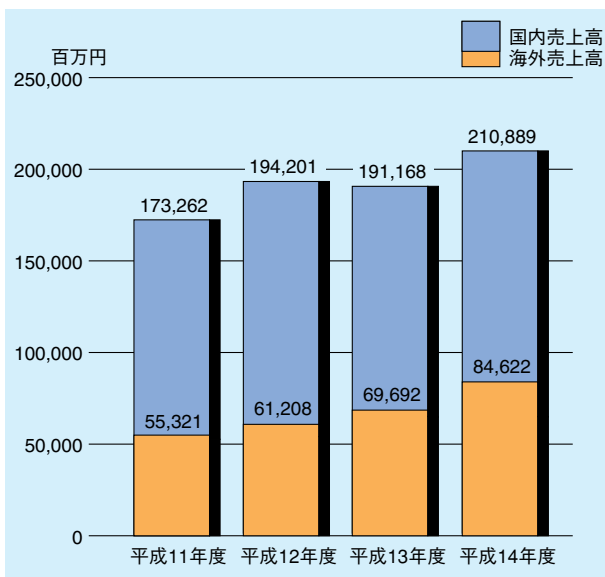
その他の部門

塩化ビニル樹脂関係の売上高は、前期を若干下回りました。また、設備販売も大幅に下回りました。さらに、技術供与・技術援助収入につきましても低調に推移しました。

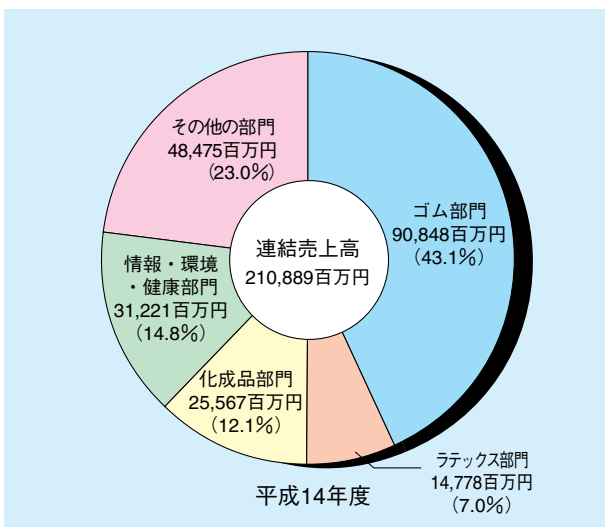
一方、その他関連子会社においては、商事活動での大幅な売上増があり、また各社ともコストダウンに努めたことにより、利益面での改善を図りました。

以上の結果、当部門の業績につきましては、売上高は前期比9.8%増の491億5百万円、営業利益は同27.8%増の10億8千万円となりました。

連結売上高の推移

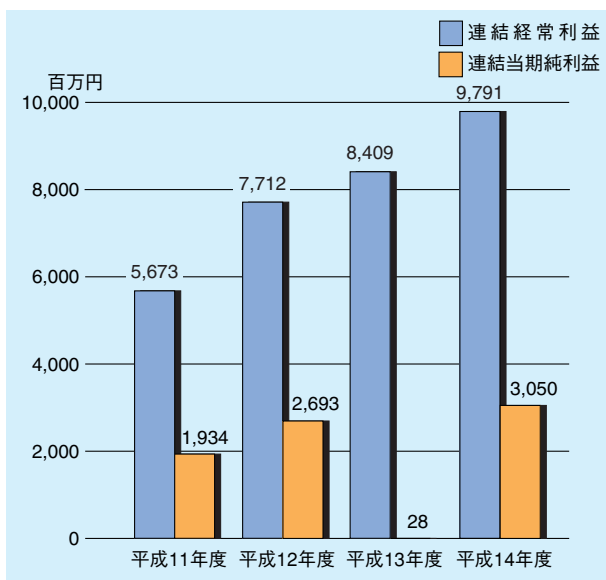


部門別売上構成

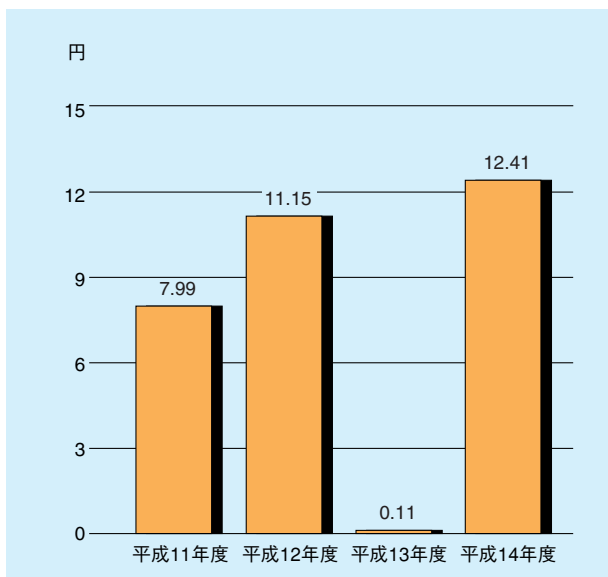


(注) 但し、部門売上高は部門間の内部売上高又は振替高を控除して表示しております。

連結経常利益・連結当期純利益の推移



1株当たりの連結当期純利益の推移



トピックス

1. 画期的新製法によるLCD用光学フィルムの製造、販売開始

昨年10月、熱可塑性高機能透明樹脂のシクロオレフィンポリマー（COP）を用いた、画期的新製法である溶融押出し法による液晶ディスプレイ（LCD）用光学フィルム（商品名 ゼオノアフィルム）の製造、販売を開始いたしました。



要求品質が極めて高い光学フィルムの製造は一般的に溶液キャスト法で製造されており、生産性が高くコスト競争力を有する溶融押出し法による光学フィルムの製造は不可能とされてきました。

当社技術陣は、樹脂の改良や種々の製造ノウハウを確立するなかで多くの困難を乗り越え、初めて溶融押出し法による光学フィルムの商業的生産に成功いたしました。

ゼオノアフィルムは優れた光学特性を有するとともに、市販の光学フィルムに比べて低吸湿性、高耐熱性などの特徴を有しており、位相差フィルムなどのLCD用光学フィルムとして売上を急速に伸ばしています。

FPD（フラットパネルディスプレイ）分野においては、大型液晶TVの市場拡大が予想されており、ゼオノアフィルムの展開に一層注力していきます。

2. 重合法トナーの第二プラント竣工

本年3月、レーザープリンターのインクとして使用される重合法トナーの需要拡大に対応して、徳山工場内に年産1,000トンの第二プラントを竣工いたしました。この結果、既存の1,500トンと合わせて年産2,500トン体制が完成いたしました。

当社は1993年、永年に亘り培ってきた高度なポリマー技術を駆使し、独創的技術で世界に先駆けて重合法トナ

一を上市いたしました。以来、省資源エネルギーおよび印字の高速化に適した重合法トナーは着実に販売量を伸ばし、市場で高く評価されています。



3. フッ素系化合物「ゼオローラ」の開発で GSC賞環境大臣賞受賞

本年3月、フッ素系化合物「ゼオローラ」が化学系の産・学10団体および国立研究所で構成するGSCN（グリーン・サステイナブルケミストリーネットワーク）より、GSC賞環境大臣賞を受賞いたしました。

GSCとは、化学に関わるものが自らの社会的責任を自覚し、化学技術の革新を通じて、人と環境の健康・安全を目指し、かつ持続可能な社会の実現に貢献していくことを目的とする世界的な活動です。

ゼオローラは次世代半導体製造用ドライエッチング剤や洗浄溶剤として使用されており、オゾン層破壊係数がゼロであること、地球温暖化への影響が小さいことが

評価され、既に米国環境保護庁（EPA）から「オゾン層保護賞」、日本化学工業協会から「日本化学工業協会技術賞環境技術賞」、化学バイオつくば財団より「化学・バイオつくば賞」を受賞しており、今回の受賞により改めて環境影響が少なく地球に優しい製品であることが評価されました。



当社グループの主な事業内容

ゴム部門	スチレン・ブタジエンゴム 溶液重合スチレン・ブタジエンゴム ブタジエンゴム イソプレンゴム ハイ・スチレンゴム、ハイ・スチレンレジ アクリロニトリル・ブタジエンゴム NBR/PVCラテックス共沈ブレンド NBR/PVCドライブレンド 粉末NBR アクリルゴム エピクロロ・ヒドリンゴム 水素化ニトリルゴム カーボン・マスターバッチ 合成ゴム系ポリマーアロイ										
ラテックス部門	スチレン・ブタジエン系ラテックス ブタジエン系ラテックス アクリロニトリル・ブタジエン系ラテックス アクリレートラテックス 塩化ビニル系ラテックス ラテックスコンパウンド										
化成製品部門	<table border="1"> <tbody> <tr> <td data-bbox="211 844 456 1038"> 化 成 品 </td> <td data-bbox="456 844 938 1038"> C₅石油樹脂 熱可塑性エラストマーSIS コンクリート流動化剤 生コンクリート減水剤 水系分散剤 エポキシ硬化剤 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="211 1038 456 1109"> 化 学 品 </td> <td data-bbox="456 1038 938 1109"> 合成香料 C₅系特殊化学品、医農薬中間体 </td> </tr> </tbody> </table>	化 成 品	C ₅ 石油樹脂 熱可塑性エラストマーSIS コンクリート流動化剤 生コンクリート減水剤 水系分散剤 エポキシ硬化剤	化 学 品	合成香料 C ₅ 系特殊化学品、医農薬中間体						
化 成 品	C ₅ 石油樹脂 熱可塑性エラストマーSIS コンクリート流動化剤 生コンクリート減水剤 水系分散剤 エポキシ硬化剤										
化 学 品	合成香料 C ₅ 系特殊化学品、医農薬中間体										
情報・環境・健康部門	<table border="1"> <tbody> <tr> <td data-bbox="211 1109 456 1242"> 情 報 材 料 </td> <td data-bbox="456 1109 938 1242"> 半導体ケミカル（フォトレジスト、電子線レジスト、剝離液、エッチングガス） トナー関連製品、磁気テープ用バインダー樹脂 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="211 1242 456 1355"> 高機能樹脂 </td> <td data-bbox="456 1242 938 1355"> シクロオレフィンポリマーおよび加工品 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="211 1355 456 1488"> 環 境 資 材 </td> <td data-bbox="456 1355 938 1488"> 廃ゴムやプラスチックをリサイクルした景観資材 公園整備用諸資材 土木資材（法面保護材、緑化材、地盤補強安定材） 道路舗装用アスファルト改質材 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="211 1488 456 1559"> RIM成形品 </td> <td data-bbox="456 1488 938 1559"> 合併処理浄化槽、住宅設備部材、建・農機用部品、ゲーム機外箱など </td> </tr> <tr> <td data-bbox="211 1559 456 1637"> 医 療 器 材 </td> <td data-bbox="456 1559 938 1637"> 内視鏡下の治療用各種カテーテルなど 鶏用ワクチン </td> </tr> </tbody> </table>	情 報 材 料	半導体ケミカル（フォトレジスト、電子線レジスト、剝離液、エッチングガス） トナー関連製品、磁気テープ用バインダー樹脂	高機能樹脂	シクロオレフィンポリマーおよび加工品	環 境 資 材	廃ゴムやプラスチックをリサイクルした景観資材 公園整備用諸資材 土木資材（法面保護材、緑化材、地盤補強安定材） 道路舗装用アスファルト改質材	RIM成形品	合併処理浄化槽、住宅設備部材、建・農機用部品、ゲーム機外箱など	医 療 器 材	内視鏡下の治療用各種カテーテルなど 鶏用ワクチン
情 報 材 料	半導体ケミカル（フォトレジスト、電子線レジスト、剝離液、エッチングガス） トナー関連製品、磁気テープ用バインダー樹脂										
高機能樹脂	シクロオレフィンポリマーおよび加工品										
環 境 資 材	廃ゴムやプラスチックをリサイクルした景観資材 公園整備用諸資材 土木資材（法面保護材、緑化材、地盤補強安定材） 道路舗装用アスファルト改質材										
RIM成形品	合併処理浄化槽、住宅設備部材、建・農機用部品、ゲーム機外箱など										
医 療 器 材	内視鏡下の治療用各種カテーテルなど 鶏用ワクチン										
その他の部門	塩化ビニル樹脂製造受託 塩化ビニルコンパウンド 技術供与・抽出技術（ブタジエン、イソプレン、ブテン1） 技術供与・製造技術（合成ゴム、合成ラテックス） 原材料・副資材 包装物流資材 建設・建築資材										

世界に誇れる技術をご紹介します

光学用機能樹脂 ゼオネックス

ガラスとプラスチックの特性を併せ持つゼオネックス。OA機器、オーディオ、カメラのプリズム、レンズなどに大活躍しています。



重合法トナー

世界で初めて工業化に成功した重合法トナー。優れた解像力と高速印字に対応できるトナーとして、レーザープリンターやファクスなどに使われています。

半導体用エッチングガス ゼオローラZFL-58

ゼオローラは、オゾン層を破壊しない、環境にやさしい最先端のエッチングガス。半導体製造工程で活躍しています。



RIM大型成形品

大型・複雑な形状のプラスチック製品を自由に成形。合併処理浄化槽、建設機械のパーツ、住宅用の浴槽ユニット、洗面ボウルなどで活躍しています。

水素化ニトリルゴム ゼットポール

熱や油、摩耗に強い特殊合成ゴム。タイミングベルトなど、自動車エンジンの最重要保安部品などに使われています。



光学用高機能フィルム ゼオノアフィルム

ゼオノアフィルムはパソコンや携帯電話の液晶パネルに使用される位相差フィルムや偏光板保護膜、タッチパネル用透明導電膜などの光学用フィルムとして使用されています。

合成香料

化学合成によりつくられる、安全で高品質の合成香料。花・若葉・フルーツなど、さまざまな匂いがあります。香水やシャンプー、食品用香料などの用途で世界の人々に使用されています。



光学用高機能樹脂 ゼオノア

ゼオノアは、液晶モニターのバックライト導光板や大型液晶テレビのバックライトの拡散板として大きな注目を集めています。

連結貸借対照表 (平成15年3月31日現在)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	107,763	流 動 負 債	114,987
	百万円		百万円
現金及び預金	9,268	支払手形及び買掛金	48,601
受取手形及び売掛金	45,724	短期借入金	40,093
有価証券	166	未払法人税等	2,321
たな卸資産	33,607	賞与引当金	1,251
未収入金	15,000	その他の引当金	340
繰延税金資産	1,828	そ の 他	22,381
そ の 他	2,953	固 定 負 債	34,643
貸倒引当金	△ 783	社 債	10,000
固 定 資 産	108,227	長期借入金	8,599
有 形 固 定 資 産	74,283	繰延税金負債	1,079
建物及び構築物	18,661	退職給付引当金	8,003
機械装置及び運搬具	36,837	役員退職慰労引当金	770
土 地	12,745	連結調整勘定	637
建設仮勘定	3,136	そ の 他	5,555
そ の 他	2,904	負 債 合 計	149,630
無 形 固 定 資 産	7,456	少数株主持分	
営業権	4,120	少数株主持分	1,200
そ の 他	3,336	資 本 の 部	
投資その他の資産	26,488	資 本 金	24,211
投資有価証券	19,537	資 本 剰 余 金	18,336
繰延税金資産	1,794	利 益 剰 余 金	24,168
そ の 他	6,092	その他有価証券評価差額金	16
貸倒引当金	△ 935	為替換算調整勘定	△ 1,380
繰 延 資 産	10	自 己 株 式	△ 181
資 産 合 計	216,000	資 本 合 計	65,170
		負債・少数株主持分及び資本合計	216,000

連結損益計算書 (平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで)

科 目	金 額
	百万円
売 上 高	210,889
売 上 原 価	156,988
売 上 総 利 益	53,901
販売費及び一般管理費	40,956
営 業 利 益	12,945
営 業 外 収 益	1,228
受 取 利 息 ・ 配 当 金	409
そ の 他 収 益	819
営 業 外 費 用	4,382
支 払 利 息	1,519
為 替 差 損	1,148
そ の 他 費 用	1,715
経 常 利 益	9,791
特 別 利 益	495
固 定 資 産 売 却 益	75
投 資 有 価 証 券 売 却 益	364
そ の 他 特 別 利 益	56
特 別 損 失	5,695
固 定 資 産 処 分 損	326
投 資 有 価 証 券 評 価 損	2,467
会計基準変更時差異に係わる退職給付引当金繰入額	2,115
そ の 他 特 別 損 失	787
税金等調整前当期純利益	4,591
法人税，住民税及び事業税	2,591
法人税等調整額	△ 1,036
少数株主損失	14
当 期 純 利 益	3,050

貸借対照表 (平成15年3月31日現在)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流 動 資 産	62,024	流 動 負 債	70,517
	百万円		百万円
現金預金	3,199	支払手形	49
受取手形	620	買掛金	30,872
売掛金	22,241	短期借入金	20,742
有価証券	30	一年以内償還社債	10,000
製品・商品	12,249	未払金	4,217
仕掛品	2,159	未払費用	1,118
原材料・貯蔵品	2,632	未払法人税等	1,744
前払費用	326	預り金	151
繰延税金資産	1,370	賞与引当金	860
短期貸付金	2,407	修繕引当金	339
未収入金	15,218	その他流動負債	422
その他流動資産	209	固 定 負 債	22,664
貸倒引当金	△ 642	社債	10,000
固 定 資 産	91,800	長期借入金	4,675
有 形 固 定 資 産	53,299	退職給付引当金	7,283
建物	10,783	役員退職慰労引当金	670
構築物	3,658	その他固定負債	34
機械装置	25,907	負 債 合 計	93,181
車両運搬具	67		
工具器具備品	1,848		
土地	9,031		
建設仮勘定	2,002		
無 形 固 定 資 産	2,654		
ソフトウェア	2,559		
その他無形固定資産	95		
投 資 等	35,846		
投資有価証券	16,868		
子会社株式	13,531		
子会社出資金	410		
長期貸付金	1,041		
長期前払費用	1,022		
繰延税金資産	2,241		
その他投資等	1,126		
投資等評価引当金	△ 40		
貸倒引当金	△ 356		
資 産 合 計	153,824		
		資 本 の 部	
		資 本 金	24,211
		資 本 剰 余 金	18,335
		資 本 準 備 金	18,335
		利 益 剰 余 金	18,066
		利 益 準 備 金	3,026
		圧縮記帳積立金	1,437
		圧縮特別勘定積立金	545
		特別償却積立金	45
		別 途 積 立 金	9,081
		当期末処分利益	3,929
		(うち当期利益)	(2,569)
		株 式 等 評 価 差 額 金	36
		自 己 株 式	△ 7
		資 本 合 計	60,642
		負 債 ・ 資 本 合 計	153,824

損益計算書 (平成14年4月1日から 平成15年3月31日まで)

科 目	金 額
経常損益の部	
Ⅰ 営業損益の部	百万円
1. 営業収益	117,948
売上高	117,948
2. 営業費用	108,582
売上原価	84,013
販売費及び一般管理費	24,568
営業利益	9,366
Ⅱ 営業外損益の部	
1. 営業外収益	1,216
受取利息・配当金	667
その他収益	549
2. 営業外費用	2,708
支払利息	869
その他費用	1,838
経常利益	7,874
特別損益の部	
1. 特別利益	426
固定資産売却益	32
貸倒引当金戻入益	107
投資有価証券売却益	286
2. 特別損失	4,525
退職給付引当金繰入額	2,040
投資有価証券評価損	1,918
その他特別損失	567
税引前当期利益	3,775
法人税, 住民税及び事業税	1,761
法人税等調整額	△ 556
当期利益	2,569
前期繰越利益	1,964
中間配当額	605
当期未処分利益	3,929

備考 貸借対照表および損益計算書の記載金額は百万円未満切り捨てにより表示しております。

利益処分

摘 要	金 額
	円
当 期 未 処 分 利 益	3,929,325,045
任 意 積 立 金 取 崩 額	
特 別 償 却 積 立 金 取 崩 額	14,696,404
圧 縮 特 別 勘 定 積 立 金 取 崩 額	545,550,856
圧 縮 記 帳 積 立 金 取 崩 額	177,579,628
合 計	4,667,151,933
これを次の通り処分します。	
利 益 配 当 金	605,148,963
(1株につき2円50銭)	
役 員 賞 与 金	50,000,000
(監査役賞与金360万円含む)	
任 意 積 立 金	
特 別 償 却 積 立 金	626,168
圧 縮 記 帳 積 立 金	625,568,644
次 期 繰 越 利 益	3,385,808,158

(注) 平成14年12月10日に605,180,520円(1株につき2円50銭)の中間配当を実施しました。

会社の概要 (平成15年3月31日現在)

■商号 日本ゼオン株式会社 (ZEON CORPORATION)

■設立 昭和25年4月12日

■資本金 242億1千1百万円

■事業所

本社 東京都千代田区丸の内2-6-1 (古河総合ビル)
〒100-8323 電話03 (3216) 1772

(第二本社)
オフィス) 東京都港区芝公園2-4-1 (秀和芝パークビル)

大阪事務所 大阪市淀川区西宮原1-8-29 (テラサキ第2ビル)

名古屋事務所 名古屋市名東区本郷3-134 (TAKビル)

高岡工場 富山県高岡市荻布630

川崎工場 川崎市川崎区夜光1-2-1

徳山工場 山口県周南市那智町2-1

水島工場 岡山県倉敷市児島塩生字新浜2767-1

総合開発センター 川崎市川崎区夜光1-2-1

■従業員の状況

従業員数		前期末比増減	平均年齢	平均勤続年数
男性	1,973 名	- 170 名	45.1 歳	23.9 年
女性	137	- 20	32.6	11.7
合計 または平均	2,110	- 190	44.3	23.2

- (注) 1. 上表には当社関連企業への出向者を含みます。
2. グループ全体の従業員は2,868名であります。

株式の状況 (平成15年3月31日現在)

■株式の状況

- 会社が発行する株式の総数 800,000,000株
- 発行済株式の総数 242,075,556株

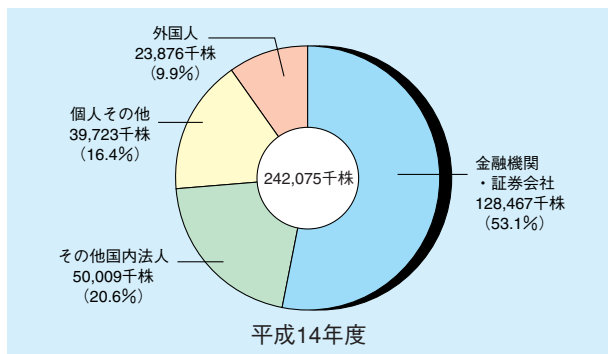
■株主数

16,962名 (前期末比1,170名減)

■大株主

株主名	当社への出資状況		当社の当該株主への出資状況	
	持株数	議決権比率	持株数	議決権比率
古河電気工業株式会社	15,032 ^{千株}	6.23 [%]	— ^{千株}	— [%]
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	14,459	6.00	—	—
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	13,862	5.75	—	—
横浜ゴム株式会社	11,632	4.82	17,318	5.09
朝日生命保険相互会社	7,679	3.18	—	—
日本生命保険相互会社(特別勘定年金口)	7,103	2.95	—	—
みずほ信託退職給付信託みずほコーポレート銀行口再信託受託者資産管理サービス信託	6,479	2.69	—	—
旭化成株式会社	6,438	2.67	4,300	0.31
UFJ信託銀行株式会社(信託勘定A口)	5,692	2.36	—	—
株式会社みずほコーポレート銀行	5,577	2.31	—	—

■株式の所有者別状況



役

員

(平成15年6月27日現在)

取	縮	役	会	長	中	野	克	彦
取	縮	役	社	長	古	河	直	純
専	務	取	縮	役	大	多		豊
専	務	取	縮	役	山	崎	正	宏
常	務	取	縮	役	平	松	暎	章
常	務	取	縮	役	関		秀	樹
常	務	取	縮	役	三	嶋	洋	一
常	務	取	縮	役	宮	本	正	文
取	縮	役	役	夏	梅	田	伊	男
取	縮	役	役	和	岡	田	靖	郎
取	縮	役	役	岡	小	倉	誠	一
取	縮	役	役	小	新	村	由	郎
取	縮	役	役	南	南		正	明
取	縮	役	役	荒	荒	川	忠	幸
取	縮	役	役	伏	伏	見	公	平
取	縮	役	役	香	香	川	好	正
常	勤	監	査	役	瀬	間		大
常	勤	監	査	役	瀬	永	靖	敏
監	査	役	役	富	藤	田		雄
監	査	役	役	藤	石	原	民	讓
監	査	役	役	石				樹

株主メモ

決算期日	3月31日
配当金受領 株主確定日	3月31日および中間配当を行うときは 9月30日
基準日	3月31日（そのほか臨時に必要なときは、あらかじめ公告します。）
公告方法	日本経済新聞
名義書換代理人	中央三井信託銀行株式会社 東京都港区芝三丁目33番1号(〒105-8574)
同事務取扱所	中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 東京都杉並区和泉二丁目8番4号(〒168-0063) 電話 東京 (03) 3323—7111(大代表)
同取次所	中央三井信託銀行株式会社全国各支店 日本証券代行株式会社本店および全国各支店